

## 専門家によるコメント

(1) <sup>なかい</sup>中井 <sup>ひとし</sup>均 滋賀県立大学教授

専門：考古学（中近世城館遺跡）

今回駿府城の天守台内部から検出されたもうひとつの天守台石垣は自然石を積む野面積みであり、さらに出土した大量の金箔瓦の造瓦技術が豊臣期の特徴を示していることより、天正 18 年(1590)に豊臣秀吉によって駿府に入れ置かれた中村一氏が秀吉の支援を受けて築いたものであることは間違いない。関東に移された徳川家康に対して金箔瓦に飾られた天守の造営は豊臣政権の威光を示すシンボルであったと考えられる。

今ひとつ重要なことは徳川家康が駿府城を改修するにあたってこの中村天守を封印して、その上に自らの天守を構えたことも今回の調査で明らかとなった。その天守台が検出されたことは画期的な調査成果である。駿府城は徳川家康の城だけではなく、豊臣政権にとっても重要な城であったことがこの天守台の検出によって明らかとなった。

(2) <sup>おわだてつお</sup>小和田哲男 静岡大学名誉教授／公益財団法人日本城郭協会理事長

専門：日本中世史、戦国時代史

天正 18 年（1590）の豊臣秀吉の小田原攻めのあと、徳川家康が駿府城から江戸城に移され、駿府城には秀吉の家臣中村一氏が入ってきた。しかし、これまで中村一氏時代の駿府城については書かれたものもなく、遺構もなく、幻の城とされていた。今回の発掘調査によって天守台が姿をあらわしたことの意義は大きい。駿府城 という、どうしても慶長 12 年（1607）からの大御所家康の駿府城が地表面に残っているため、それだけに目がいく傾向があるが、その下に豊臣政権下の中村一氏の駿府城があったことがわかったわけで、これは大発見である。さらにその下に天正 13 年（1585）着工の、家康による 5 カ国時代の駿府城が埋まっている可能性も出てきた。今後に期待したい。